



## テーマ：モノづくり企業に必要な4つの秘訣

### ～ネジザウルスGTの開発から得られた「MPDP」

講師：株式会社 エンジン社社長 高崎 充弘

2009年に弊社が開発した「ネジザウルスGT」というネジの頭が潰れて回せなくなった時に掴んで回す工具は、それまでのネジザウルスシリーズに比べて10倍以上の大ヒット商品となりました。

このヒットの要因を詳細に分析した結果得られたのが、M(マーケティング)、P(パテント)、D(デザイン)、P(プロモーション)という4つの要素の存在でした。このMPDPが日本のものづくり企業を活性化する4つのKey Success Factorと考えています。



#### 1. マーケティング (M)

マーケティングはMPDPの中で最も難しい要素です。中小企業だけでなく大企業も大変苦労しています。マーケティングに関してネジザウルスGTから得られた教訓をお話したいと思います。

開発にあたって、最初に行ったのは従来型ネジザウルスを購入されたお客様から回収された約1,000枚の愛用者カードの仕訳作業でした。「グリップを太くして欲しい」、「ペンチの先端を細くして欲しい」、「バネをつけて欲しい」、「刃をつけて欲しい」など数十項目の改善要望の中で、どの意見を採用すべきか？について社内で大いに議論をしました。そしてリクエストが多かった5つの改善点を盛り込んで、ネジザウルスGTが誕生しました。

2009年夏、得意先から帰ってきた営業マンの報告を受けて大変ビックリしました。お客様の「ウケ」が最も良かったのは、要望の数としては一番少なかった5番目の意見、「頭が薄いネジ（トラス）も外せるようにしてほしい」でした。多くの人がまだ気がついていない潜在意識下のニーズを取り入れることで、インパクトが大きくなり、待ち望んでいた商品だと評価されることに気がつきました。

#### 2. パテント (P)

MPDPの中で中小企業のボトルネック（弱み）になっているのが、パテント（知的財産）の活用です。大企業では知財部の社員が数百人、社内弁理士が数十人いる会社も珍しくありません。しかし中小企業は知財部もなく弁理士資格を持つ社員もいません。ですから、何かアイデアがあった時には特許事務所の先生に聞きに行きます。ところが弁理士さんのお話は二階からビールを注いで貰っている感じです。専門用語が多く、知識の落差が大きすぎて、ほとんど理解できませんでした。

そこでたまたま2005年、知的財産管理技検定がある事を知り、私自身が知的財産管理技能士資格を取得しました。すると、階段を少し登ってゆくことができ、弁理士さんのビールが私のコップにスムーズに注がれるではありませんか！ まさに目からウロコでした。その後社員にも推奨し、現在では50人の社員の約半数が知的財産管理技能士（国家資格）です。



### 3. デザイン (D)

デザインについては経営者のマインドの切り替えが重要です。ネジザウルスGTは2009年グッドデザイン賞に初挑戦し受賞しました。また世界で最も権威がある iF product design award 2011 (ドイツ) も受賞することができました。作業工具分野でのiF受賞は日本ではネジザウルスGTが初めてです。ハノーヴァーでの受賞式に参加し、その重みとデザインの意義を感じる事が出来ました。素人の私たちがこのような栄えあるデザイン賞を受賞できたのはビギナーズラックである。

これから発売する新製品は全てデザイン賞を受賞できるようなものにしよう！ という気持ちになりました。その為にはやはり、デザインの専門家の力を借りなければならないという事を強く感じました。そして、現在ではプロのデザイナーの協力とアドバイスを得ながら商品開発を進めています。

### 4. プロモーション (P)

プロモーションは中小企業にとってフォローの風が吹いています。ホームページやブログ、ツイッター、フェイスブックなどインターネットの活用によって、自社の製品やサービスの強みを、コストをかけずに情報発信する事ができるようになりました。

弊社では「一家に一本、ネジザウルス！」を合い言葉に、ネジタリアン恐竜の「ウルスくん」という可愛いキャラクターをつくりました。着ぐるみやぬいぐるみを制作するなどワンコンテンツ・マルチユースによるローコスト・プロモーションを実践しています。

ドイツやイタリアには社員僅か数十名ですが、高いブランド力を有する工房もたくさんあります。日本の中小企業においても、自社の強みである技術やサービスをベースにして、そこにMPDPの考え方を導入し、実践する事で大企業の下請け、孫請けではなく自社のブランドを構築してゆくことができると思います。



- 【経歴】** 1955年1月22日 神戸市生まれ  
1977年 東京大学工学部卒業 三井造船株式会社入社  
1983年 米国レンスラー工科大学 (RPI) 修士課程卒業  
1987年 双葉工具株式会社 (現㈱エンジニア) 入社  
2004年 代表取締役社長就任
- 【主な受賞歴】** 2011年 全国発明表彰「日本商工会議所会頭発明賞」  
2012年 文部科学大臣表彰「科学技術賞」 知財功労賞「特許庁長官賞」  
2013年 春の黄綬褒章  
2014年 経済産業省「グローバルニッチトップ企業100選」  
厚生労働大臣表彰「職業能力開発」  
2015年 グッドカンパニー大賞「特別賞」
- 【主な公職】** 日本商工会議所 知的財産専門委員会委員  
(公社) 発明協会 青少年創造性開発育成委員会委員  
(公社) 日本発明振興協会 理事  
(一社) 大阪発明協会 常任理事  
(一財) 知的財産研究教育財団 中小企業センター長  
内閣官房 知的財産戦略推進本部 検証・評価・企画委員 (2015-2016年)  
経済産業省 中小企業・地域知財支援研究会委員 (2015-2016年)
- 【著書】** 「ネジザウルスの逆襲」(日本実業出版社、2015年10月出版)